

農業技術

プリズム

県の基幹作物のイチゴは、収量性に優れ5月以降の果実品質の良い「ゆめのか」が多く栽培されていますが、気温が高まる4月以降のアザミウマ類による果実被害が問題となっており、同虫の防除体系の確立が求められています。さらに、アザミウマ類は種により寄生部位や薬剤の防除効果が異なる可能性があり、種類に対応した防除を行う必要があります。

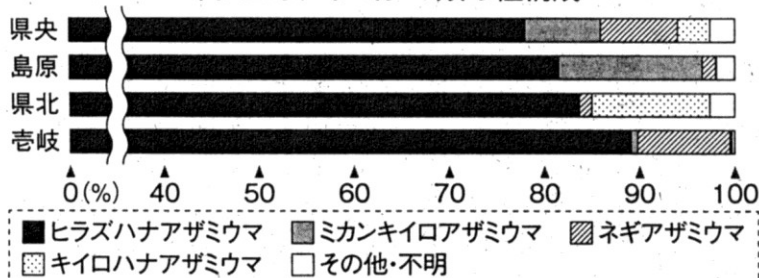
そこで、イチゴに発生しているアザミウマ類を明らかにするために、2015年と16年の4、5月に県内36圃場（ほじょう）でイチゴの花内に寄生する

アザミウマ類の種類を調査しました。
その結果、イチゴの花に寄生するアザミウマ類はヒラズハナ

イチゴの果実被害対策

アザミウマ類を調査 ヒラズハナが優占種

2015年と16年の4、5月における
イチゴのアザミウマ類の種構成



今後はこの結果を参考に、薬剤散布や防虫ネット、天敵などを組み合わせた総合的な防除試験を進めていきます。
(県農林技術開発センター 病害虫研究室 吉村友加里)